

平成 24 年度老人保健健康増進等事業 事業概要

社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター

事業名	事業実施目的・事業内容
若年性認知症に対する効果的な支援に関する研究事業	認知症介護研究・研修大府センター（大府センター）では、若年性認知症に対する効果的な支援体制を構築するためのさまざまな取り組みを行ってきた。今年度の事業の目的は、これらを継続・発展させるとともに、若年性認知症意見交換会で述べられた本人や家族、介護支援者等の要望等、地域包括支援センターの調査における意見等を参考にして、若年性認知症の本人や家族が疾患を理解し、社会制度・サービスを活用して、地域で生活するのに支援するための「若年性認知症ハンドブック」を作成する。 介護保険サービスを利用している若年性認知症において最もニーズが多いデイケア・デイサービスについて、全国におけるその実態を調査する。認知症対応型デイサービスにおける課題を抽出し、若年性認知症の受け入れを促進するための情報基盤を構築する。また、大府センターで作成した若年向けのデイケアプログラムの普及を図る。 若年性認知症の就労支援に関しても、就労先として障害者施設が多く挙げられている。すでに平成 19 年度に、愛知・岐阜・三重 3 県の障害者施設において、若年性認知症の受け入れ状況や課題を調査しているが、その後、精神保健福祉士等に対して、若年性認知症に関する啓発セミナーを行ったり、若年性認知症相談窓口としてのコールセンターが設置されたことなどから、前回から 5 年たった障害者施設での現状を再度調査する。
施設における認知症高齢者の QOL 向上のための多面的アプローチ・リハビリテーションに関する研究事業	認知症高齢者では、言葉での意思の疎通や指示は限られ、本人への関わりが一方通行となりやすい。このような介護の本質的問題を少なくするアプローチとして、認知症高齢者の残存機能を賦活するリハビリテーションプログラムが考えられている。我々がこれまでに行ってきた、回想法や音楽療法など非薬物療法の要素を包括的に含み、認知症高齢者の能力を引き出し、自信をつけて QOL 改善を目指す、軽度認知症向けの「いきいきリハビリ」、ミラーニューロンの機序を応用した中等度以上の認知症向けの「にこにこリハ」は、認知症高齢者の脳機能を系統的に賦活しながら、QOL の向上に結びつける試みである。 今年度は、1) 認知症高齢者の意思や気持ち、感情の疎通といったコミュニケーション機能の特性を明らかにし、介護やリハビリ、施設での生活に有用な情報を提供する。2) リハビリテーションおよびその場を、認知症高齢者からの情報を集めたり、施設や介護者が期待する目標を認知症高齢者へ伝えたりするインターフェース（相互作用の手段）としての役割をもたせるようなプログラムを提案する。3) コミュニケーションを取る際には、聴覚情報に含まれる非言語性の要素も重要な役割を果たしているの

	で、認知症高齢者の音声認知の特徴を検討し、どのような「話しかけ方」が意思疎通や信頼関係の構築に有用であるのかを明らかにする。これらを包括的に検証し、認知症高齢者の生活を改善し、かつ介護者負担を軽減できるような、立体的・多次元的なリハビリプログラムを確立する。
--	---